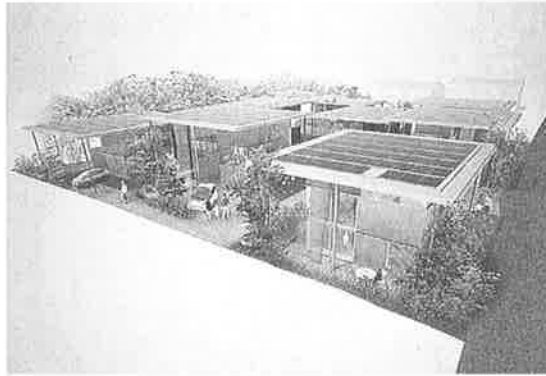


購入者が共同設計「コーポラティブ住宅」

亀井組が環境配慮型

太陽光発電や植栽特色

建設会社の亀井組(徳島県鳴門市)は環境配慮型のコーポラティブ住宅を徳島県内で展開する。複数の顧客が組合を結成し共同で住宅を建設するコーポラティブ方式の戸建て住宅事業で、各戸に太陽光発電設備を備えるなど省エネ機能を加えて特色を出す。まず鳴門市の案件について今月から入居者の募集を始め、徳島市周辺での開発も目指す。



8日に鳴門市の本社で同市内のプロジェクトの説明会を開き、入居希望者の募集を始める。亀井組は土地の販売のほか住宅、街並みの基本的な提案と設計・建設、共有部分の運用指針の作成支援などを手掛ける。顧客が結成する組合が土地を取

得し建築を発注する。建設予定地は同社の遊休地で、小鳴門海峡と天円山に近い静かな住宅地にある。敷地面積は約2200平方メートル。住宅8戸と共有広場からなる街区にする計画だ。

各戸の屋根には太陽光発電パネルを設置。出力の3〜4割を各戸で使うほか、10割分は亀井組が管理して固定価格買い取り制度を使って四国電力に売電する。売電

収入は街区の共有部分である植栽や道路の維持管理に同社が使う。1階床には保温性の高いタイルや石材を使用。天井に設けたファンで空気を循環させ室内の温度差を解消するなど、できるだけ冷暖房設備に頼らない住環境を目指す。風通しを良くするため、建物の窓は風向きを考慮して取り付ける。

各戸の屋根に落ちる雨水を集める共同タンクと共有散水栓を設け、ガーデンニングや打ち水などに使えるようにする。各戸には塀を設けず植栽で区切り、緑豊かな統一感ある町並みとする。プライバシーや風通しの確保のため、各戸の配置と宅地の広さは同社が決めるが、建物の内装や間取りは顧客が自由に設定できる。

1戸当たりの土地面積

は260平方メートル程度、建物は木造2階建て面積は100平方メートル程度。価格は3500万円前後となる予定。

亀井組の2013年9月期の売上高は42億円。

環境分野に力を入れ、太陽光発電所の設置事業が10億円を占めた。環境配慮型の住宅事業は今後、徳島市周辺でも展開し、3年後に年間3億円程度の売上高を目指す。

写真はいメージ